

新型コロナワクチンの接種

①小児（5～11歳）の追加接種、②12歳以上の令和4年秋開始接種の終了について

主催	加古川市												
日時	①3月25日、②5月7日												
場所	一												
	<p>①小児（5～11歳）の追加接種（3回目・4回目）に使用するワクチンをオミクロン株対応2価ワクチンに変更する。</p> <p>(1) 対象者 初回接種（1回目・2回目）を完了している5歳～11歳の方（約1,850人）</p> <p>(2) 使用するワクチン 小児用オミクロン株対応2価ワクチン（ファイザー社製）</p> <p>(3) 接種間隔 前回接種完了から3か月</p> <p>(4) 接種場所 集団接種（市役所新館10階）、個別接種</p> <p>(5) 接種券 3回目未接種者：既に送付済みの接種券を使用 4回目接種対象者：3月17日までに発送（約850人）</p> <p>(6) 集団接種スケジュール 3月25日（土）（本日から予約開始）、 4月1日（土）（3月20日予約開始） ※以降の接種日は、決定次第、ホームページ等で案内 ※個別接種は、準備ができ次第、順次開始</p> <p>②2022年10月から開始した12歳以上の令和4年秋開始接種を5月7日で終了する。5月8日以降は令和5年春開始接種を開始するため、オミクロン株対応ワクチンをまだ接種していない接種希望者は期日までの接種をご検討いただきたい。</p>												
内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>令和4年秋接種（～5/7）</th> <th>令和5年春接種（5/8～8月末）</th> <th>令和5年秋接種（9月～12月）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者、基礎疾患のある方、医療・施設従事者など（R5春開始接種の対象者）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>上記以外の12～64歳の方（R5春開始接種の対象ではない者）</td> <td></td> <td>×</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>（初めて・恒例・●回目）</p>	対象者	令和4年秋接種（～5/7）	令和5年春接種（5/8～8月末）	令和5年秋接種（9月～12月）	高齢者、基礎疾患のある方、医療・施設従事者など（R5春開始接種の対象者）	○	○	○	上記以外の12～64歳の方（R5春開始接種の対象ではない者）		×	
対象者	令和4年秋接種（～5/7）	令和5年春接種（5/8～8月末）	令和5年秋接種（9月～12月）										
高齢者、基礎疾患のある方、医療・施設従事者など（R5春開始接種の対象者）	○	○	○										
上記以外の12～64歳の方（R5春開始接種の対象ではない者）		×											
対象（参加者）													
定員	一												
参加費	全額公費負担												
申込先・方法													

目的・背景 その他	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止し、市民の生命及び健康を守るため、国の指示のもと、市において実施する。
市ホームページ	掲載済み · 掲載予定（3月14日） · 掲載しない
広報かこがわ	月号に掲載 · 4月号に掲載予定 · 掲載しない

問合先

加古川市新型コロナワクチン接種推進課（担当：依藤、森岡）
☎ 079-427-9172（内線6174）

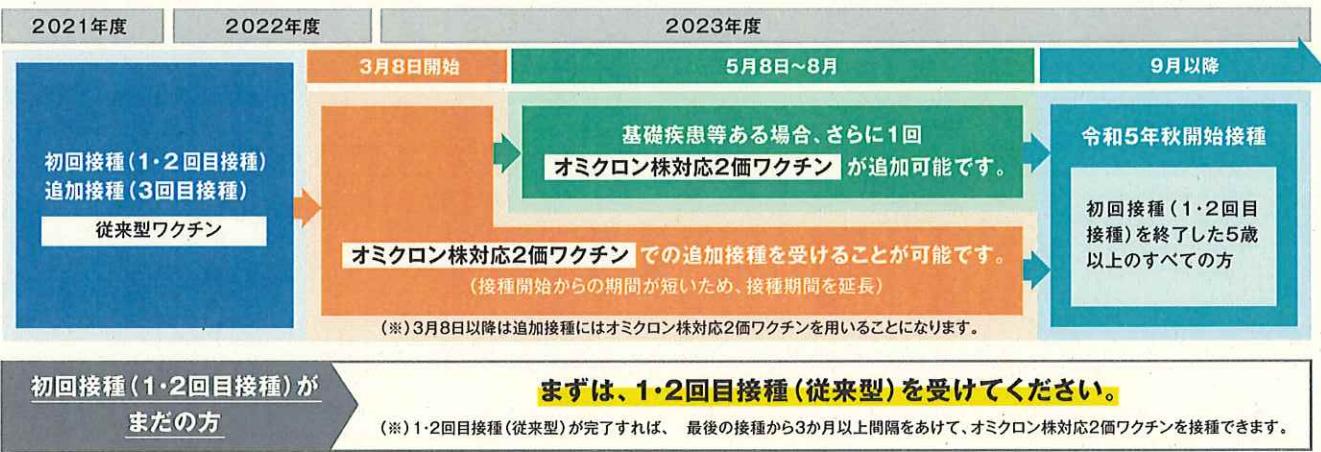
5歳から11歳のお子様への追加接種も

3月8日から、オミクロン株対応2価ワクチンになります。



5歳から11歳のお子様の接種スケジュール

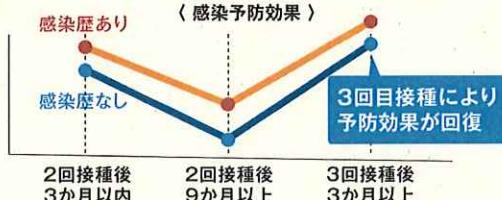
- オミクロン株対応2価ワクチンは、少なくとも1・2回目接種を完了した5~11歳のお子様が対象です。
- 最後の接種から3か月以上、間隔をあけて接種します。ファイザー社の5~11歳用のオミクロン株対応2価ワクチンを使用します(※)。(※)ファイザー社の12歳以上のものに比べ、有効成分が1/3になっています。



Q1. 3回目接種には、どのような効果がありますか?

A1. 3回目接種(従来型ワクチン)により、現在流行しているオミクロン株に対して、感染しにくくなる効果が期待できます。

米国において、5~11歳の子どもを対象とした研究で、従来型ワクチンの初回接種の効果は徐々に低下し、9か月以上経過すると大幅に低下すると報告されていますが、従来型ワクチンを追加で接種して3~5か月経過すると、新型コロナへの感染があつてもなくとも、感染予防効果は50~60%程度であったと報告されています。



出典: Khan FL et al., Estimated BNT162b2 Vaccine Effectiveness Against Infection With Delta and Omicron Variants Among US Children 5 to 11 Years of Age. JAMA Netw Open. 2022 Dec 1;5(12):e2246915.

Q2. 子ども用のオミクロン株対応2価ワクチンは、海外で使用されていますか?

A2. 子ども用のオミクロン株対応2価ワクチンは米国すでに使用されており、安全上の大きな問題はないと報告されています。

米国においては、2022年10月から子ども用に使用されており、米国CDC(疾病管理センター)の報告によれば、80万回以上接種された実績に基づいて、安全性の評価が行われています。米国で接種を受けた方や親などの報告に基づくデータによると、発熱は約19%、疲労感は約30%、頭痛は約20%の方に現れたとされています。また、医師等による報告に基づくデータによると、接種後の死亡や心筋炎と報告されたものはないとされています。

◎ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要です。また、5歳から11歳のお子様のワクチン接種には、保護者の同意と立ち会いが必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、ワクチンを受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

◎予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要となる手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索



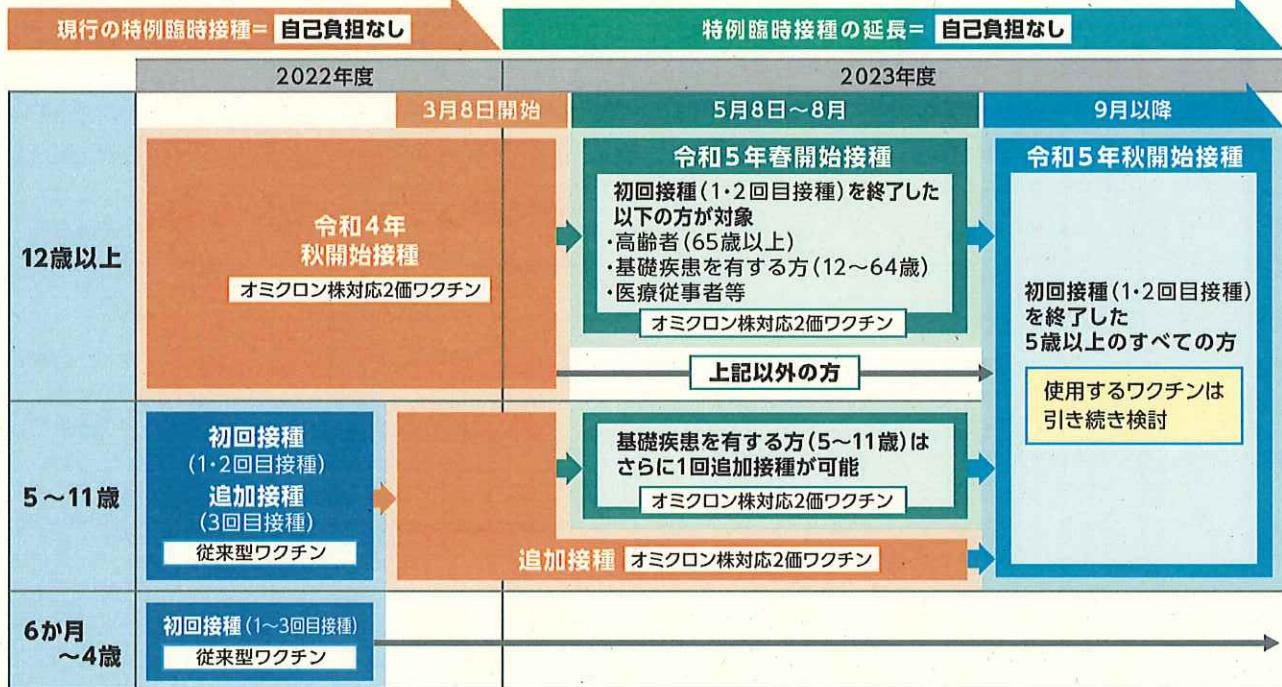
新型コロナワクチン接種についてのお知らせ



令和5年度も、すべての方に自己負担なしで 新型コロナワクチンを接種いただけます。



令和5年度における新型コロナワクチンの接種のイメージ



よくあるご質問

Q1. 65歳以上の高齢者は令和5年度は必ず2回ワクチンを接種しなければならないのでしょうか?

A1. 65歳以上の高齢者の方など重症化リスクが高い方については、国の審議会において、ワクチンの効果や持続期間等を踏まえて通常、秋から冬に1回のところを、前倒しで1回追加することが望ましいとされました。

接種は義務ではなく個人の判断によるものですが、令和5年度は、春から夏の時期(5月8日～8月末まで)と秋から冬の時期(令和5年9月～)の2回の接種をお勧めしています。

Q2. なぜ5月から令和5年度の接種が始まるのですか?

最後にワクチンを打ってからどれくらい間隔をあけてワクチンを打てばよいですか?

A2. 65歳以上の方には、春から夏の時期(5月8日～8月末まで)と秋から冬の時期(令和5年9月～)の2回の接種をお勧めしています。これは、新型コロナの流行が見込まれる時期等を勘案し、一定期間の間に、接種を行うものです。

ここ数年、年末年始に流行がみられることから、5歳以上のすべての方を対象として令和5年9月から年末までの間に令和5年秋開始接種を行うことに加え、ワクチンの重症化予防効果は高齢者等では6か月程度で低下するとの報告もあることや、令和4年秋に開始された高齢者の方のオミクロン株対応2価ワクチンの接種のピークは令和4年11月～12月であったことから、高齢者の方等を対象に令和5年春開始接種を5月に開始します。

いずれの方についても、最終接種からの接種間隔は薬事上少なくとも3か月以上あけることとなっていますが、必ずしも3か月後に打つことをお勧めしているものではありません。接種を希望される方は、国が推奨している時期に接種を行うようにしましょう。

令和4年秋開始接種は令和5年5月7日で終了しますので、まだ令和4年秋開始接種を受けていない方のうち令和5年春開始接種の対象者でない方(健常な12歳以上65歳未満の方)は、令和4年秋開始接種を希望される場合には、必ず令和5年5月7日までに接種してください。

接種券については市町村ごとに対応が異なりますので、お住まいの市町村にお問い合わせください。

◎予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要となる手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。